

津波避難行動調査・指導員を  
ご紹介します

黒潮町では、「津波避難行動調査・指導員」として、次の4人を採用しました。

今年3月から、2人1組で町内各地区に入り、班単位でワークショップを行います。また、世帯ごとに家族構成や支援の必要性の有無などをまとめた「避難カルテ」を作成していきます。皆さんのご協力をよろしくお願いします。



もり とみ お 森 富美男    のむら のり お 野村 則男    ひがし たく や 東 卓弥    こまつ はや と 小松 隼人

○お問い合わせ

本庁 情報防災課 南海地震対策係 ☎43-2188(直通)  
津波避難行動調査・指導員 ☎43-2231(直通)

南郷小学校で「実践的防災  
教育推進事業研究発表会」

1月25日、南郷小学校で、平成24年度に高知県教育委員会の指定を受けて取り組んだ「実践的防災教育推進事業」について研究発表会が行われました。

まず、全学年の公開授業がありました。2・3年生は道徳の授業で、日ごろ自分たちが家族や地域の方、消防士など多くの人に支えられていることを勉強しました。

また、東日本大震災の被災地でボランティアを行った黒潮消防署員の話も聞きました。

授業終了後、児童には抜き打ちで避難訓練が行われ、参加者も学校裏の階段を上って避難場所へ移動（表紙写真参照）。日ごろから、教員が避難場所になくても自分たちで行動できるよう訓練を重ねている児童らは、広場に到着すると、上級生の指示のもと整列・点呼を行い、今日の訓練で気付いた点などを発表しました。

全体会では、同校が「児童が主体的に行動し、自分の命は自分で守ることができる力をつける」を目標に、毎月2回の避難訓練や、

炊き出し訓練などを行っていることが報告されました。

また、5・6年生が地域の避難場所を確認し、1人暮らしの高齢者にインタビューを行った内容を発表。「津波が起こったら津波でんどこしかないが、起こる前の今だからこそできることがある。まず地域の人を知り、親しくなり、一緒に避難訓練をしたり、逃げるための個人カルテを作りたい」とまとめました。

高知県スクールカウンセラーの竹口佳昭さんの講演では、震災で心がパニックになった児童生徒の対応について話があり、「ストレス反応は誰にでも起こる自然な反応。子どもの話を聴いたり、手を握ったり、リラククスしたりすると、パニックを軽減できる」と伝えました。



宮城県石巻市の「語り部」  
佐賀小学校で被災体験語る

2月4日、佐賀小学校にて河北新報社（宮城県仙台市）主催の防災講演が行われ、佐賀小・佐賀中・地域住民らが参加し、宮城県石巻市で被災した2人の「語り部」の話を聞きました。



石巻みずほ幼稚園長の津田広明さんは、海岸近くの幼稚園で被災。津波が来るといふ放送を聞いて、幼稚園の屋根に脚立で避難しました。消防士の野田和好さんは、勤務先の女川消防署で被災。屋上のアンテナ塔につかまりましたが、流れてきた船がぶつかり水に投げ出され漂流しました。その後、建物の鉄骨につかまり助かりました。河北新報社の須藤宣毅さんは、「家族が津波に流されたらみんな悲しいでしょう。逆にみんなが流されたら家族は悲しむはずです。今日思ったことを家族に話し、みんなも家族も地震が来たら逃げてください」と呼びかけました。